

# 等々力防災Watch!

No.22

## 日常生活の中に避難想定を！

近年、高い頻度で大きな地震が起きている日本で、小規模地震から大地震まで様々ですが、最も恐れるのは、地震がいつ、どこで起こるか分からないということです。そんな現代において、私たちは常に災害時を想定していなければなりません。いざというときに備えて等々力地区では、4つの小中学校で避難所運営訓練を実施しています。



### ★避難所運営訓練

等々力地区では、毎年、避難所（集団での避難生活）での運営手順等の確認を町会ほか地域関係者、学校関係者の皆さんと行っています。在宅避難（自宅等での避難生活）の普及啓発とあわせて、力を入れて取り組みます。



### 等々力小学校（令和6年10月12日(土)実施）

マンホールトイレ、ガソリン式・カセットボンベ式の発電機、応急給水栓の操作方法について指導・説明を受けました。町会やおやじの会の運営スタッフも実際に操作などを体験し、使い方を覚えてもらいました。

### 尾山台中学校（令和6年11月16日(土)実施）

防災資機材操作方法の指導・説明を受けました。町会の避難所運営スタッフから、「発電機で電気炊飯器は炊けるのか、カセットボンベはどれくらいの時間使えるのか」などの多くの質問があがり、防災に対する関心や理解がさらに深まりました。



### 玉堤小学校(令和6年12月14日(土)実施)

防災資機材操作方法の指導・説明を中心に行われました。マンホールトイレについて、運営スタッフから、「男性用と女性用の区別をするために、テントカバーを設置する際に向きを変えて、判別しやすくしてはどうか。」などの意見がありました。

### 尾山台小学校(令和7年1月18日(土)実施)

これまでの避難所運営訓練に代えて、今年度は運営スタッフのほか小学5年生の児童と保護者の参加型による防災の体験イベントという方式で実施しました。

- ①初期消火体験②起震車体験③スタンドパイプ体験
- ④5年生の学習成果発表のコーナーを体験しました。



# 巨大地震注意について知ろう

令和6年8月、宮崎県で震度6弱を観測した日向灘を震源とする地震（M7.1）の発生を受けて、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表しました。この臨時情報は、「地震は予知できない」という前提のもとで地震の発生に結びつく可能性のある前兆（＝前震やゆっくりすべり等）現象をとらえようとする試みから始まりました。

## 南海トラフ地震とは

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。

科学的に想定される最大クラスの南海トラフ地震（南海トラフ巨大地震）が発生した場合、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されています。なお、政府は令和7年1月15日、南海トラフで今後30年以内にマグニチュード8～9級の地震が発生する確率を、これまでの「70～80%」から「80%程度」に引き上げました。

## 南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフ地震臨時情報（以下、「臨時情報」という）は、このような南海トラフ地震の周期性や連続性に注目したもので、南海トラフ地震の発生の可能性が高まった場合に、気象庁から発表される情報です。

臨時情報発表後の防災対応を行いやすくするため、「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」のようにキーワードを付して発表されます。情報の種類や発表条件は、次の通りです。

| 南海トラフ地震臨時情報 |        | 発表条件                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| キーワード       | 調査中    | ■ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合<br>■ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合                                                                                                                                                                |
|             | 巨大地震警戒 | ■ 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合                                                                                                                                                                                                         |
|             | 巨大地震注意 | ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合<br>■ 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合<br>■ 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合<br>■ ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合 |
|             | 調査終了   | ■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合                                                                                                                                                                                                                                |
|             |        |                                                                                                                                                                                                                                                                      |

## ～あわせて読みたい～ 首都直下型地震とは

「首都直下型地震」とは、首都及びその周辺地域の直下で発生するマグニチュード7クラスの地震及び相模トラフ（相模湾から房総半島南東沖までの海底の溝）沿い等で発生するマグニチュード8クラスの海溝型地震のことです。

等々力地区の皆さんをはじめ、東京圏内で暮らす人々にとっては、より身近に発生しうる巨大地震です。日頃からの意識と備えを心がけましょう。